

った。

この2つの火災事例について、種々の角度から検討を尽くしてみたところ、防火管理体制に優劣があったとはいいいにくいことが判明した。

火や煙が回る時間はそれぞれの旅館・ホテルによって異なるがいずれにしても、客・従業員全員が安全に避難出来るような対策も講じておく必要がある。

45人の死者を出したNo.6火災を契機に「適マーク」制度がスタートしたが、木造建物まで対象にしたこともあって、その後も「適マーク」の旅館・ホテルでの火災が発生した。

「適マーク」制度は、決められたチェック項目にしたがって、消防機関が調査をし、全ての項目に合格した旅館・ホテルに「適マーク」を交付するものだが、夜間の防火管理体制の適否がチェック

項目に入っていなかったため、真に「適マーク」にふさわしい旅館・ホテルにするために、自治省消防庁では、旅館・ホテル自身が夜間防火管理体制を自発的、具体的に考え、真に有効な防火管理体制を確立することを期待して、新しい発想で『旅館・ホテル等における夜間の防火管理体制指導マニュアル』を作り、全国の消防機関に通達した。

これは冒頭に述べたように、それぞれの旅館・ホテルの構造、内装などによって決められる「限界時間」内に、必要な火災対応行動が行えるか否かを、旅館・ホテルが自ら検証して、**出来なければ出来るように改善策を自ら考え、自ら実施する**というものである。消防機関は助言するだけで、「こうすべきである」というような、勧告や命令はしない。あくまでも旅館・ホテルの自主性を尊重する。

やるべきことを時間内に出来るかどうか具体的に考える

——今度つくられたマニュアルの考え方は、非常にユニークなものだと思いますが、リスク・リーダーの読者のために分かりやすく解説していただませんか。

小林 ご存じのように、旅館・ホテルの防火管理体制をレベルアップするために、「適マーク」制度が出来たわけですが、その「適マーク」を受けた対象物で大きな火災が発生しているわけですね。だから何のための「適マーク」なのかという批判が起こるのは当然で、これは何とかしなければいけない。

それで、消防法を改正して、たとえば宿泊客50人ごとに1人の従業員を宿直させるようにしたらどうかというような意見もありました。

しかし考えてみると、最近建てられたビジネスホテルなどは、夜間はやはり1人か2人しか従業員がいませんが、それでもそんなに危険な感じがしない。なぜかというと、現在の建築基準法、消防法を守ってつくられていて、場合によってはスプリンクラーもついている。階段区画はきちっとして、かなり単純明快なプランで出来ている。それから内装制限で燃えにくくなっている、余分なものは余りない。非常放送のスピーカーもあるし、ここで火災になってもたくさん人が死ぬとは思えない。

そういうところと、温泉旅館のように次々増築して、区画ははっきりしていない、いろいろな物が置いてあるというようなところを、同じよ

うに50人当たり1人というように規制するのは不合理です。

——確かに全然条件が違いますからね。

小林 そこで考えたのがマニュアルの考え方です。ある建物で火災が発生したとき、初期消火出来なくて拡大するという場合、これは物理現象ですから、建物の構造とか、中にどのくらいの可燃物があるかとか、区画がきちんと出来ているのかということによって、危険になる限界時間は定量的に決まるはずですよ。この時間内に、ある一定のことをやればいいのかという考え方です。

ある一定のことというのは、自動火災報知設備が鳴ったとき、①本当に火災かどうか見に行って②現場の状況を確認し、③119番通報をして、それから④初期消火を試みて、成功すればいいですが、失敗したときに⑤みんなを起こして⑥避

難誘導する。

これだけは、火災対応の基本事項として、誰が何といってもやらなければならない。逆にこれだけ出来ればとりあえずいいという考え方です。それを旅館・ホテルがそれぞれ自分の問題として、考えてどんな方法でもいいから出来るようにしてくださいということです。

——火災時の対応行動を「限界時間」内に行うという、具体的な時間目標を設定したのは非常にユニークですね。考え方も極めて理路整然、単純明快ですが、それでも旅館・ホテルの方が自発的に行うのは難しいということはありませんか。

小林 一般論で考えるのは確かに難しいでしょうが、自分のところの建物について考えればいいわけですから、それほど難しいことはないでしょう。

限界時間は火災階と非火災階に分けて設定する

——たとえば限界時間を設定するにはどうするんですか。

小林 簡単にいうと、内装制限がされていない場合は3分、内装制限がされていれば6分、スプリンクラーがついていれば9分という基準が決められています。これは火災階の基準で、非火災階については別に設定します。

ですから図面を見て、内装材料を見れば誰でもすぐ分かるようになっています。

——限界時間が決まったら、次は実際に行動してタイムを計るわけですが、出火場所はどのように設定するんですか。

小林 実際の行動は、火災を確認に行く人が待機している場所からもっとも遠いと思われる感知

器を発報させてスタートします。普通は、夜間勤務の従業員は、自動火災報知設備の前で待機していますが、仮眠している場合には、すぐには行動出来ないはずだから、発報してからすぐには行動を開始してはいけない、15秒経過してから、行動を起こしなさいというように細かく指導マニュアルに規定しています。

とにかく「あなたのところの実態に即した形で具体的にやってみなさい」ということです。

——現場の状況確認のしかたとか、119番通報のしかたとかも決められていますか。

小林 ええ。指導マニュアルにはすべて盛りられています。ただマニュアル通りに、テストのように間違いなくやらなければならない、というよう

な指導はするなといっています。要は効果的な火

災対応が出来ればいいわけですから。

改善方法も自主的に決める

——これだけ具体的な指導を受ければ、「もしうちが火事になったら」と具体的に考えざるを得ませんね。少なくとも言われたことだけやってあげばいい、ということでは済まされませんね。

小林 それが一つの大きな狙いです。今までの火災事例を見ると、「自分のところが火事になったら」なんて、真剣に考えていないんじゃないかと思うんですね。たしかに、考えるのは面倒だし、少しは難しい面もありますが、防火管理は、自分で考えて、やるべきことを本当に出来るようにしておくことが絶対必要です。

ですから、どうしても考えてもらわなければならない。その考えるコツを伝授したいという思いがあるわけです。

——ところで、やってみて時間内に出来なかったという場合は、当然改善策を考えなければなりません、そのときは消防機関としては、どうするんですか。

小林 やはり改善策も自主的に考えて、決定してもらいます。

相談されれば、「こういう方法もあるでしょう」というようなアドバイスはします。しかし、幾つかの改善策が考えられるとき、そのどれを採用するかは、自主的に決定してもらいます。

改善策はいろいろ考えられるわけです。限界時間を延ばす方法もあるでしょうし、行動時間を短縮する方法もあるでしょう。たとえば、限界時間

が3分だったとして、3分ではとても出来ない。

そういうときにどうするかといたら、「内装を燃えにくくすれば6分になりますよ」「工事をするのがいやだったら、人を増やす方法もあるでしょう」というわけです。

「とにかく限界時間内に、やらなければならないことはやってください、そうしないと危険ですよ」、とこれだけは消防機関はいいましょう、アドバイスはしますから、どうやったら一番安くクリア出来るか、解答は旅館・ホテルのほうで考えてください、ということです。

——ところですでに指導の結果は出ているんですか。

小林 東京では昨年(昭和63年)の8月から始めました。とりあえず「適マーク」対象物からやっていますが、東京の場合、比較的新しい建物が多いですから、ほとんどがクリアしています。

——やはり現在の法令以前の古い建物が、問題なわけですね。

小林 特に木造建物と、増築を重ねた複雑な建物ですね。そういうところは簡単にクリア出来ないものがあるかもしれないから、5年間の猶予をもって「適マーク」の条件にしようというわけです。

——そういうところも、我々が安心して泊まれるように、早くクリアしてほしいですね。

表2 出火原因と出火場所

出 火 原 因		出 火 箇 所															旅 館	ホ テ ル	宿 泊 所
		計	宿 泊 室	階段・階段室・踊り場	調 理 場	壁内・各種貫通部	屋 内 駐 車 場	物 入 ・ 物 置	リ ネ ン 室	機 械 室	従 業 員 室	火 焚 場	浴 室	便 所	天 井 裏	そ の 他			
合 計		110	64	6	5	4	3	3	2	2	2	2	2	2	2	11	27	61	22
た ば こ		46	32	3						2		2	1		6	6	30	10	
放 火		27	14	3			3	3	1				1		2	9	13	5	
電 気 関 係	小 計	17	8		1				1	2					2	3	4	7	6
	屋 内 線	3			1										1	1		1	2
	電気こんろ	2	2																2
	モ ー タ ー	2								1					1		1	1	
	そ の 他	10	6						1	1						2	4	5	1
ガ ス 関 係	小 計	8	2		4						2						5	3	
	ガスこんろ	2			2												1	1	
	ガストーブ	2	2														2		
	ボ イ ラ ー	2									2						2		
	そ の 他	2			2													2	
煙 突 ・ 排 気 筒		4				4												4	
マ ッ チ		3	3															2	1
ラ イ タ ー		2	2														1	1	
ふ と ん		2	2														1	1	
不 明		1	1														1		

旅館	27	17		1			2	1		1	2	1	1		1
ホテル	61	33	6	3	4	3	1	1	1	1			1	2	5
宿泊所	22	14		1					1			1			5

※出火原因のその他 { 電気……ストーブ、アイロン、ヘアードライヤー、増幅器、冷蔵庫、冷房機、オートトランス、コード、器具付きコード、電磁開閉器各1件

{ ガス……大型ガスコンロ、大型ガスレンジ各1件

※出火箇所のその他………受付、居室、雑用室、ふとん部屋、就寝用室、押入、舞台、雑品倉庫、廊下、ごみ焼却室、パイプスペース各1件